

ウェルビーイング推進本部ではこんなことを協議しております。

第2回ウェルビーイング推進本部会議

令和6年度から蒲郡市では、蒲郡に関わるすべての人々がウェルビーイングを実感できるまちづくりの推進をしていく中で、全庁的に協議をすすめる為に、ウェルビーイング推進本部を立ち上げております。本部長の鈴木市長のもと、「健康」と「幸福」を軸としたまちづくりのために、各部局の部長級職員がWEB会議に参集し、協議をしております。今回、第2回となる推進本部会議については横浜市立大学西井助教にご参加いただきました

蒲郡市ウェルビーイング推進本部

（設置）

第1条 蒲郡市に関わる全ての人のウェルビーイングの実現に向けて、市内各部局の連携のもと、ウェルビーイング推進に関する施策を総合的かつ一体的に推進するため、蒲郡市ウェルビーイング推進本部（以下「本部」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 本部は、次の事務を所掌する。

- (1) ウェルビーイング推進に係る取組の方針の共有及び運用に関すること。
- (2) ウェルビーイング推進に係る各部局の取組に関する協議及び総合調整に関すること。
- (3) その他ウェルビーイング推進のために必要な事項に関すること。

（組織）

第3条 本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織し、別表に掲げる職の者をもって充てる。

- 2 本部長は、会務を総理し、本部を代表する。
- 3 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるとき又は本部長が欠けたときは、本部長があらかじめ指定した副本部長がその職務を代理する。
- 4 その他市長が指名する者を本部員とすることができる。



・市長（推進本部長）あいさつ

第1回目を5月20日に開催し、今回で2回目の開催となります。その間、各部各課で様々なウェルビーイングに関する事を考えていただき進めていると聞いております。私も昨日、横浜市立大学先端医療学研究センター武部貴則先生、女子栄養大学の津下一代先生と面談し、幸福と健康の両方向で進める本市のウェルビーイングについてお話を改めて聞いてまいりました。両先生のご支援もあり、今後の取組に大いに期待できるものであると再確認しました。皆様からの忌憚のないご意見と活発な議論をお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

・横浜市立大学西井助教あいさつ

横浜市立大学の西井です。イネーブリングシティプロジェクトは健康だけでなく自ずと幸せになる、というものです。市民の皆さんが楽しみながらやっていくという仕組みを創っていければと思います

ウェルビーイング推進本部長

（蒲郡市長）のあいさつ



■東京医科歯科大学武部教授研究室にて
女子栄養大学の津下一代教授と

ベンチ設置に関する議論について



・都市開発部長

7/17 にイネーブリング・シティ推進施策案であるベンチ設置についての提案があった。統一した色のベンチ、市民から提供された椅子などを屋外に設置し市民のウェルビーイング増進に繋げる提案であった。不要になった衣装ケースから作られたサーキュラーベンチ、奥三河の間伐材で作ったベンチも可能であれば蒲郡らしさが出ると思われる。また設置場所として「健康の道」に置けば歩いてもらえるようになるのではないかと「健康の道」のルート上にある公園にもベンチを設置すれば、公園によってはトイレ、健康遊具、自動販売機もあり公園の利用にも繋がる。公園のベンチの老朽化が課題となっておりその課題解決にもなるので関係課と検討を進めたい。

・市民生活部長

ベンチの関係でクリーンセンターに持ち込まれた家庭ごみの活用について家庭ごみについてウェルビーイング推進課から相談があった。現状家庭ごみについては使用できるものはメルカリで利活用を図っている。色んな場所でクリーンセンターに持ち込まれたものを利活用いただくことについては協力できるが、環境清掃課で修繕や、加工はできないのでまた管理の問題などの課題はある。リユースを促すという点ではPR効果も高い。

・学校教育長

今、子供たちは夏休み、現在、熱中症予防のため通学途中のお茶を飲むことを、給水を促しているが、通学中の給水スポットや休憩、交流という考え方で「ベンチ」の活用についても可能性があるのではないかと考えている。地域協働活動として地域の力として木工が得意な方のベンチの作成など借りていけるとよい。

・産業振興部

シティセールスが実施している、ベンチアートの取組を、今後、継続して進めるについて、ウェルビーイング推進課と東京藝術大学との連携も考えられるかとも感じています。ベンチアート海岸沿いのみの設置になっているが、山から見下ろすベンチや、まちなかの景観を見直すベンチも可能性としてはある。

・西井助教

ウェルビーイング推進課と議論する中で、作っておしまいではなく、理念やプロジェクトが2年や3年で終わるのでなく、そこに色々な方も巻き込み、みんなでベンチを作って町を維持していく、文化というものを醸成する、自走するようなものを描くことが良いのではないかと議論している。道路は管理上の課題があるので困難だと思われるが、空き家や家の軒下にベンチ置くことを許可いただくという取組であれば設置の可能性もうまれ、維持管理についても近所の方がやっていただければ、外から来た人も中の人も受け入れるみたいな町になり、まさにハッピー&ヘルシーだと考える道路についても植樹帯をやめてコンクリートにするのでなく、ベンチに切り替えるという話も提案としていただいている。具体化する過程を、蒲郡市の皆さんと一緒にやっていきたい。

←第1回イネーブリング・シティ WALKで unhappy と評価されたベンチ。

理由としては『座面がぬれているから』壊れている、いないということだけでない維持管理の難しさがある。



・推進本部長（市長）

既にベンチアートプロジェクトが展開する中での、今回のベンチに関する協議は健康という観点から歩く距離を増やす、休息する、交流するといったまちの健康増進というテーマである。ベンチアートプロジェクトとは少し異なる。ベンチがどんどん増えていく様子は目に見えて変化があるしHappyの因子にもなる。またみんなが維持し、関わることで参画意識や健康への意識も変わってくるのではないかと考えている。『フォレストガンプ』という映画の中で主人公がベンチに座る中で様々な人と一緒に座り話す中で物語が進んでいく、映画の中でもベンチの役割は大きい。ヘルシー＆ハッピーのベンチで新たな交流を生まれること、子どもたちが休息している風景など、様々な意味合いが生まれるベンチに関する企画になると思う。ウェルビーイング推進課中心に頑張ってもらいたい。

各部局における

ウェルビーイング推進について

・教育長

前回の推進本部で提案した「通学路のイネーブリングシティ WALK」については、モデル的に実施できるとよいと思うが、通学路はたくさんあるので、どこを対象にするのか、また誰が歩くのかも検討したい。例えば、保護者と一緒に下校できる日を選択したり、イベントという形での実施もあると思うが、横浜市立大学の先生からもアドバイスをいただきたい。

→西井助教

ウェルビーイング推進監から通学路がイネーブリングシティ WALK のターゲットにならないかという話をいただいている。子どもたちがワートと歩いている様子は町の活気に連動するし、またそれが安全で、楽しくあるのはターゲットとして素晴らしいと思う。通学路についてのベンチで夏の給水ポイントという考えは良いと思います。安全かつハッピーな通学路というのは、住民にとっても幸せを促すと思われる。無数の通学路についてはウェルビーイング推進課の方々と、健康に関するデータを地図上に落とし込むことに取り組んでいる。その中でエリアを選定し、別の地域課題とリンクするような通学路を選定できるのかなあと考えている。一番生徒が多いとか、多くの人が使う所がポイントになるのかなあと考える。是非、子どもたちの目線でハッピーとアンハッピーの取り組みを見つけるようなことをしていきたい。保護者の方の目線も教育長がお話される通りとても大切。親目線は子供の絶対安全を重視するし、子供はこどもで目線がちがう。その接合点を見つけるためにも、保護者だけでターゲットにしたエリアでしかけて皆さんからの意見を賜りながら、こども目線の物も取り入れながら、一致する場所はどこなんだろうという事を探りながらやっていくと最適な改善点が見つかるのかなあと感じている。すごくありがたい提案なので進めさせていただければと思う。



・危機管理課

本年1月1日発生した令和6年能登半島地震において、死者の4分の1（318名の死者のうち89名）が災害関連死（7月24日時点）であり、避難生活等における身体的負担が原因の1つと言われている。意気消沈となりがちな避難所生活において、音楽鑑賞会、体操をするエコノミー症候群を無くすという端的なものは出ているが系統だった具体的な方法を考える糸口の具体的なアドバイスをいただけるとありがたい。

→西井助教

極限的な状況で、運営する側も大変な中でやることなのでウェルビーイングな場面がないよという事が多いかと思う。音楽鑑賞会や体を動かすことは大切なのでそれはそれで進めることが大切。あと、本当にその現場にあてはまるかはわからないが、環境を整えることによって人々のエンバイロメントや受け止め方が変わる。普段、病院内で取り組んでいるのは病院の待ち時間において、長い待ち時間はアンハッピーというのがあり、ピアノ講演会などをやるなども取り組んでいる。あまり知らない人と一緒にいるのがしんどいという仮説の中で簡易なパーソナルスペースを設けることでハッピーを高めることができないかをコロナ前まで研究していた。

・総務部

事例紹介のあった階段を利用したハピネスドリブン・アプローチの取り組みを市庁舎において実践し効果を検証することを予定している。現在、写真の選定方法と、実施後の効果測定方法について検討を進めている。ぜひ横浜市立大学の先生からもアドバイスをいただきたい。

→西井助教

写真について過去の実証実験では海外の Unsplash を使った。一つのテーマを皆さんで決めて、皆さんが選んだ写真をやっていくというパターンもある。絵画であれば Creative Commons Zero もある。商業利用も可能な公開している絵のサイトがある。有名なモネの絵も使える。皆さんが市民の人たちが、幸せだと感じる絵を飾るというのも方法としてある。測定方法についてはエレベーターを使う人の率を見ていくのは大切。赤外線センサーもあるが誤作動が発生することがあることや、昇りか降りなのかがわからないなどの不都合もある。人力でやっていくのが一番良いデータがとれたことも含め詳しくまた相談させてほしい。



西井正造

- ・横浜市立大学先端医科学研究センター コミュニケーション・デザイン・センター (YCU-CDC) 助教
- ・株式会社 Open Medical Lab 取締役
- ・一般社団法人イネープリングシティ協会 業務執行理事

1972 年神奈川県生まれ。教育学の研究者を志し、博士後期課程に在籍中に、青山学院大学文学部教育学科助手就任の打診があり、そのまま助手に。その3年後、縁あって横浜市立大学医学部特任助手となり、医学生・看護学生の教育と医学教育学研究に携わる。そこから医療・医学とは別分野の人々（地域の小中学校、工学研究者、地域の子どもたち、民間企業など）と医療人をつなぐコミュニケーション教育・研究に従事。現在は、YCU-CDC にて提唱した新しい学際領域であるストリートメディカルの概念実証に向けて、医療・ヘルスケアに Happiness 要素を取り入れた多分野共創研究を行う。

2006 年 横浜市立大学現代 GP「学生が創る地域の子ども健康プロジェクト」特任助手

2009 年 横浜市立大学グローバル COE プログラム
「情報通信による医工融合イノベーション創生」特任助教

2013 年 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区担当課長

2018 年より現職

主な社会活動 国立研究開発法人日本医療研究開発機構にて AMED 社会共創 EXPO 実行委員を3か年歴任



・建設部

建設部内でウェルビーイングに関する打合せの実施 7/2 に「公共施設における幸福、健康」について打合せを行った。次回、8月に公共施設における幸福、健康に関する先進事例について調査したうえ、打合せを開催予定。まずはどのようなことが考えられるのかということから始めている。前回のイネープリング WALK でアンハッピーが集まっている道があるという事で実際の現場を見に行った。確かにゴミのネットや雑草もあったが、民地の金網や木や枯れかかっているということもあり、そこはどのような風に対応するのかという事が課題に感じている。ベンチについては公共がやらせるではなく、地元の方が主体となってやってもらうという形ができればよくなってくるなあと感じている。やらせるではなくやりたくなるというモデルが沢山あるといい。トイレが使う人によって穢かったり、臭かったりするとアンハッピーになる。どのようにトイレのウェルビーイングの要素を入れていくのか検討していきたい。まずは本庁のトイレから。

←市役所本庁内の階段

→西井助教

トイレに関しては建築住宅課から提案を承っており、何かすごい造作ではないウェルビーイングに近づくトイレを提案させていただき準備中で、できればご一緒させていただければと思っています。

・市民生活部

自然に歩きたくなる街づくりを考える中できれいで清潔な地域環境を保ち、自然と歩きたくなるまちづくりを進めるという考えに基づき、単なる社会貢献活動という視点だけでなく、スポーツやレクリエーション的な楽しむという要素を取り入れることにより、更なる参加促進を図ることができないか検討していきたい。アンハッピーな場所としてゴミステーションというのがあった。市内のゴミステーションが1300か所近くあり、大半は道路上になる。地元で管理してもらっている中でゴミステーションのあり方や管理方法について適切なのかということを知りたい。

→西井先生

ゴミに関してはウェルビーイング推進課と昨日東京芸術大学で会合があり、その中で一案としてゴミのネットをアートを施すとかゴミがない状況でもそれがオブジェの様に見えるみたいなことを検討している。また企画が進みましたら提案させてもらいたい。



↑前回のイネープリングシティ-WALKにおけるゴミステーションに関する投稿写真 いずれもアンハッピーと評価

・教育長

小学校1、2年生のまちの良いところを探す学習や、堤防アートについて三谷小学校の6年生が自分たちで作品に挑戦する学習や、中学校では10年後の蒲郡を考えるという総合的な学習を進めています。その様な学校の可能性を考える中で先ほど建設部長が“やりたくなる”ような活動というご発言があったが、学校の持っている可能性である子どもたちがやっという“やりたくなる”をうまく引き出していければいいなと思っている。そのような視点で9月の校長会ではウェルビーイング推進課に来ていただき、今後の学校でのウェルビーイングの取り組みについて話をさせていただくことを考えている。

・副市長

多くの意見があり大変いいなと思っている。ベンチの取り組みだとか、ゴミの網の問題もだが、取組当初や、作った時はとてもきれいで、すごくハッピーだと思うが、西井助教のお話のとおり維持管理だとか常時綺麗にするといった、今後どうなっていくのか、雑草がどんどん生えてくればアンハッピーになるという事も含め施策を考えて行く必要がある。先ほど、産業推進監が話されたが、いかに市民の方に加わってもらう仕掛けを作ることや、既存の地域学校の活動や、協働まちづくり事業にうまくはめていくという所が事業継続という事を考える点で大事な視点だと感じた。

・西井助教

皆さんから積極的なご提案をいただき、また色々な活動を考えていただいております。この後良い整備を考えていきたい。皆さんがこのようイネープリングシティの形成について考えていることに感動しています。

・市長

それぞれの取り組みが進捗していることに感謝しています。そして議論の中にあったベンチに関する取組については是非、全庁的に推進していきたい。各部各課で協力しあいそれぞれの視点から幸福・健康につながるベンチの取り組み繋げていただくようにお願いします。

実施日：令和6年7月30日（火）

Enabling City Walk

ゆうやけコースを歩こう！

イネープリングシティウォーク

参加無料

Happy and Healthy

【日時】2024年9月26日(木)
13時30分～16時

【集合場所】形原文化広場 (13時30分集合)

スマホ持参ください

Happy & Healthyな健康の道をみんなで作ろう!!

【誰もがみんなまちづくり調査員】

健康づくり × まちづくり

まちを歩いて健康づくりをしましょう。

健康の道でのハッピー&ヘルシーを
探しまちを歩いて、まちづくりに
参加してみましょう！

Webアプリを使用してマッピング！
スマホを忘れずに
持ってきてね☆→

【主催】蒲郡市
【問合せ先】蒲郡市ウェルビーイング推進課
TEL：0533-56-2230 メール：well@city.gamagori.lg.jp

お申込み方法は裏面です。→

①歩く
まちを歩きましょう。

②感じる
まちのハッピーやヘルシーを味わいましょう。

③撮る
写真に撮りましょう。

④投稿
投稿しましょう。

↑第2回イネープリングシティウォーク in 蒲郡のチラシ